

現場を知る自分がフロントに入り
強いチームをつくることで
日本サッカーに恩返しをしたい

中田浩二

鹿島アントラーズ C・R・O

ユース年代から日の丸を背負い、世界を相手にプレーしてきた
元サッカー日本代表の中田浩二さん。

今は一転、鹿島アントラーズのフロントスタッフに名を連ね、
新しいフィールドで日本サッカーのために尽力する中田さんに
現役時代のこと、現在のお仕事、将来の夢など、語っていただきました。



中田浩二

Profile

1979年生まれ。滋賀県出身。元サッカー日本代表。帝京高校卒業後、鹿島アントラーズに加入。主にボランチ、センターバック、サイドバックとして活躍。在籍中にJリーグの年間チャンピオン5回、Jリーグカップ4回、天皇杯2回など、数多くのタイトル獲得に貢献。02年FIFAワールドカップ・日韓大会、06年FIFAワールドカップ・ドイツ大会に出場。04年には欧州移籍を果たし、マルセイユ（フランス）、バーゼル（スイス）で活躍。14年に現役引退。15年より鹿島アントラーズのC.R.O.に就任。

常にチャレンジ精神で 駆け抜けた現役時代

小さい頃は父の転勤の関係で引っ越しが多かったんですけど、兄と始めたサッカーのおかげで、転校先では比較的すぐになじめました。小学3年の夏から7年間暮らした鳥取では、サッカー漬けの毎日。住まいは社宅でしたが、僕はサッカーをしたり友達の家遊びに行ったりで、ほとんど家にはいなかったですね。

中学3年生のときに中国大会で優勝し、全国大会では優秀選手に選ばれ、サッカーの名門・帝京高校から誘っていただきました。鳥取から東京へ単身で行くのは正直、チャレンジでしたね。でも、ずっと転校生だったおかげかな、環境が変わるなかで自分をどう出していこうかと常に考えていたので、「よしやってみよう」とすぐに前向きになれました。

高校卒業時にはいくつかのクラブチームから声をかけてもらいましたが、練習に参加して、施設を見て、自分が一番成長できると感じたのが鹿島アントラーズでした。ブラジル代表に選ばれる選手もいたし、日本代表の選手もいた。とにかく強いチームだったからこそ、ここでレギュラーになれば日本代表にも選ばれるだろうという思いもあって。それと、鹿嶋市は都会ではないので誘惑も少ないから、きっとサッカーに集中できるだろうと思ったのも大きかったかな（笑）。

おかげさまでリーグ優勝なども経験して、そのあとは、自然と世界に目が向くようになりましたね。ちょうど同期の選手たちが次々に海外チームと契約して活躍していたこともあり、彼らに負けたくない、自分もどこまでできるか試してみたいという気持ちが強くなりました。プロサッカー選手としてはもちろん、一人の人間としても。日本にいれば周りが助けてくれることも多いですが、海外ではそうはいかないので。

海外で最初に加わったのはマルセイユでしたが、ここではフランス語でのコミュニケーションが大変でした。

事前に勉強もしていたけど、うまく意思疎通ができず、結局、人と関わるのを避けてしまったところがあった。だから1年後、スイスのバーゼルに移籍したときは、積極的に人と関わろうと決めました。バーゼルでは英語で会話できたり、日本人のコミュニティもあったので、それも良かったですね。チームメイトとも仲良くしましたよ、よくご飯も食べたし。そうそう、休日に船に乗って、ふざけてみんなで坊主頭にするのがあったんですが、そのときは自分から頭を差し出して坊主になったり（笑）。そうやってチームに溶け込み、ピッチ外の壁をとっばらっていくと、自然とピッチ内でも壁がなくなりました。リーグ優勝もできたり、バーゼルでは本当に充実した時間が過ごせましたね。今思えば、マルセイユで一度苦い経験をしたことも大きかった。失敗を、ただの失敗で終わらせたくない。そんな気持ちがあったからこそ、次はちゃんと準備してうまくやることができたんだと思うんです。

現場を知る自分がフロントに 入ることでチームが強くなる

29歳で帰国して鹿島に復帰し、35歳で引退を決断。このとき背中を押してくれたのは高校時代の恩師でした。「もう、やめてもいいだろう。選手には誰しも引退のときがくる。セカンドキャリアのほうの方が長いことから、その道をお前がつくっていけ」と言われて、決心がつきました。そのときは、フロントの仕事というのは考えていなかったのですが、たまたまマーケティンググループの人から声をかけていただいて。おもしろそうだと感じ、思いきって飛び込むことにしました。

与えられた肩書はC.R.O（クラブ・リレーションズ・オフィサー）。クラブとステークホルダー（行政やスポンサー）をリレーションするという役割です。最初はもちろん大変でしたよ（笑）。パソコンもほとんど使えなかったから、メールの打ち方、パワポ・ワード・エクセルの使い方、資料のつくり方など。参考書を見ながら一生懸命覚えしました。セールスチームに所属して飛び込みで営業したり、



アポをとって挨拶に行ったり、既存のパートナーとコミュニケーションをとったりという時期を経て、今年からは経営戦略チームの所属です。中長期的にクラブをどう経営するかを考えるのですが、サッカーしかやってこなかったで、本当に毎日、新鮮です。

フロントに入って思うのは、フロントと選手の間をつなぐ存在の重要性ですね。クラブは収益をあげるため、サポーターに喜んでもらうために選手に要求したいことがあるのに、そのさじ加減がわからず遠慮してしまいがちです。その点、現場を知っている僕なら「ここまでなら選手も負担に感じずにやれますよ」と提案できるし、現役選手への要望も言いやすい。選手とフロント、どちらの立場もわかるからこそできることがたくさんあるんだと実感しています。

いつかはチェアマンになり 日本サッカーに恩返しをしたい

私生活のほうでは、2014年に結婚して、17年にマイホームを建てました。小さいときはずっと社宅だったから、念願の庭付一戸建てです。こだわったのは広いリビングとお風呂。子どもと一緒に風呂に入ったり、リビングで集まって過ごしたりと、家族とコミュニケーションがとれる場所を大事にしたかったんです。あとは、人を呼ぶのが好きなので、家の中に階段を2つ付けました。玄関

脇に1つと、ダイニングの横に1つ。リビングにお客さんがいても、気兼ねなく2階の寝室に行けるなど、自由に行動できるのがいいなと思って。階段を使えば家ぐるり一周できる構造なので、子どもたちも楽しらしく、しょっちゅう走り回っています(笑)。

鹿島アントラーズの現役時代のチームメイトとも家族ぐるみで付き合いがあるので、いまでもお互いの家を行き来したり。家ができたことで、さらに交流が深まった感じがしています。家は本当、大事ですね。

今後はフロントの仕事を覚え、経営に参加し、最終的にはJリーグのチェアマンが目標です。ヨーロッパでは、現役で活躍した選手がフロントに入る例は多くて、元ドイツ代表のオリバー・カーンはバイエルン・ミュンヘンのCEOに就任しています。でも、日本ではまだそういう例は少ない。クラブチームでも社長は親会社から出向してくるパターンが圧倒的です。現場経験のある人が経営者になることで、アスリートファーストと経営面とのバランスをとって進められるのだと思います。僕になる、ならないとは別に、そういう未来をつくる先駆けになればいいなと思っています。

僕はサッカーでいい経験をさせてもらったので、これからも、日本のサッカーがもっと強くなるように、できることをして恩返しをしていきたいですね。